

当月のS&P MLP 指数の動き

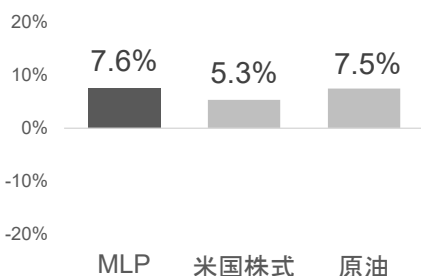
6月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+6.2%と9か月連続での上昇となりました。

上旬は、米国株式市場と原油価格が上昇する中、MLPも堅調な推移となり、S&P MLP 指数は16日に、2019年7月以来の高値を付けました。中旬以降は、FRB(米連邦準備制度理事会)がFOMC(連邦公開市場委員会)において予想外にタカ派的な姿勢を示したことを受け、米国株式市場が下落すると、MLPも下落基調となりました。

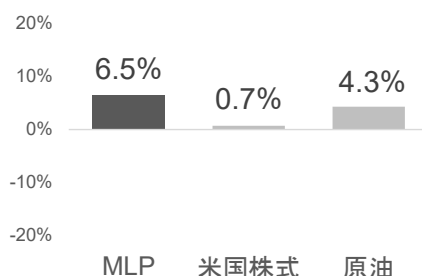
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

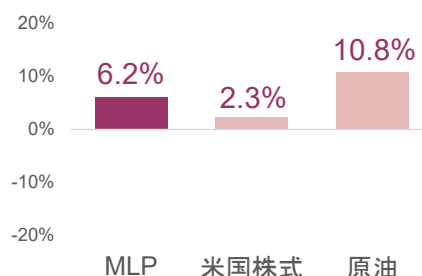
2021年4月



2021年5月



2021年6月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2021/6/30	2021/5/31	2021/3/31	2020/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	4,637.55	4,367.20	3,812.39	3,165.76	6.2%	21.6%	46.5%
プライスリターン	1,148.96	1,081.98	963.00	818.13	6.2%	19.3%	40.4%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	8,942.78	8,738.77	8,238.48	7,759.35	2.3%	8.5%	15.3%
プライスリターン	4,297.50	4,204.11	3,972.89	3,756.07	2.2%	8.2%	14.4%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	817.73	781.66	734.70	561.47	4.6%	11.3%	45.6%
プライスリターン	407.37	389.82	369.89	286.14	4.5%	10.1%	42.4%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,667.24	1,624.09	1,489.43	1,369.91	2.7%	11.9%	21.7%
プライスリターン	367.63	359.78	330.89	306.79	2.2%	11.1%	19.8%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,553.91	1,532.96	1,511.97	1,498.42	1.4%	2.8%	3.7%
プライスリターン	77.78	77.08	76.72	77.10	0.9%	1.4%	0.9%
米国10年国債利回り							
	1.46%	1.59%	1.74%	0.91%	-0.13	-0.28	0.55
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	73.47	66.32	59.16	48.52	10.8%	24.2%	51.4%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	3.65	2.99	2.61	2.54	22.2%	40.0%	43.8%
米ドル(対円)							
	111.11	109.58	110.72	103.25	1.4%	0.4%	7.6%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 1日、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟の産油国からなるOPECプラスが閣僚級会議を開き、原油の協調減産を7月まで段階的に縮小する既定方針を再確認したものの、8月以降の計画は示さなかった。同会議に先立ち、原油生産量を従来計画以上に引き上げないと、在庫が年内に大幅に減少するとの見通しが示されていた。
- 原油市場では、OPECプラスでの決定が好感され、WTI原油価格が1日に前日比+2.1%と大きく上昇した。その後も、11日にIEA(国際エネルギー機関)が、世界の石油需要が2022年末までにコロナ禍前の水準を回復するとの見通しを示したことなどを受け、原油価格は上昇を続けた。さらに18日に、イランで実施された大統領選挙で反米・保守強硬派のライシ師が当選したことを受け、イラン核合意の立て直しに向けた協議が難航し、同国産原油の禁輸解除には時間がかかるとの見方が広がると、週明けとなる21日に、WTI原油先物価格が前週末比+2.8%と大幅上昇となった。月末にかけても、米国の景気回復期待などから上昇基調は継続し、25日にはWTI原油先物価格が1バレル=74米ドル台と2018年10月以来の高値を付けた。
- 15・16日に開催されたFOMCにおいて、FRBは現行政策の継続を決定した。ただし、2021年の経済、物価見通しを上方修正したほか、2023年中に2回の利上げを想定した見通しを示した。また、パウエル議長がFOMC後の会見で、量的緩和縮小について予備的な議論の開始を示唆したことなどから、今回のFOMCが、市場で想定よりもタカ派的と受け止められる結果となった。

今後の注目点

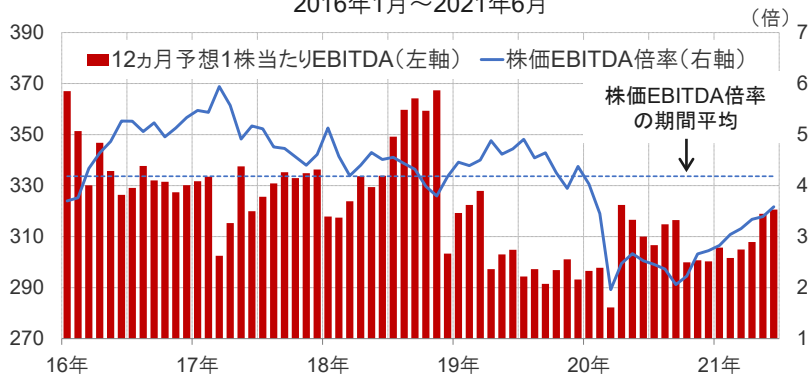
- 7月から、2021年4-6月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

MLPの予想利益動向

2020年9月下旬以降、MLPのパフォーマンスは持ち直し基調にあります。今後についても、EBITDA*などの利益見通しが改善傾向にあることや、株価EBITDA倍率が示すバリュエーションが平均水準を下回っていること、更にはMLPの利回り水準が他資産と比べて高いこと(次ページ参照)などを背景に、堅調な推移が期待されます。

* 利払前・税引前・償却前利益

＜MLPの予想利益とバリュエーションの推移＞
2016年1月～2021年6月

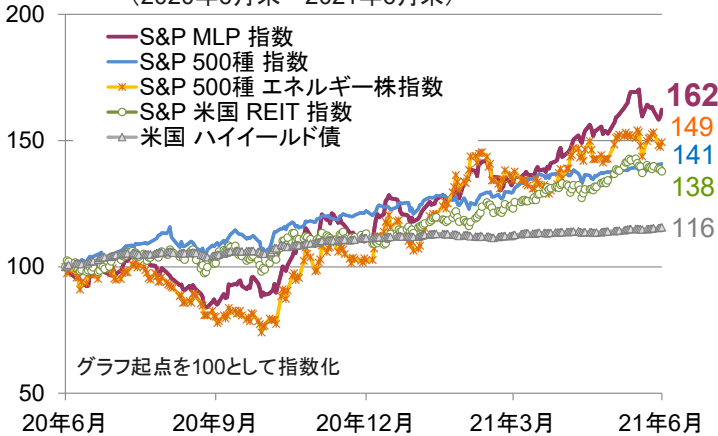


信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

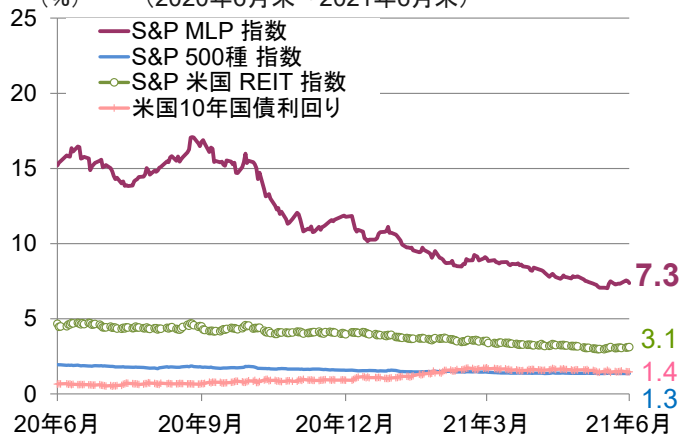
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2020年6月末～2021年6月末)



■過去1年の各資産の利回り

(2020年6月末～2021年6月末)

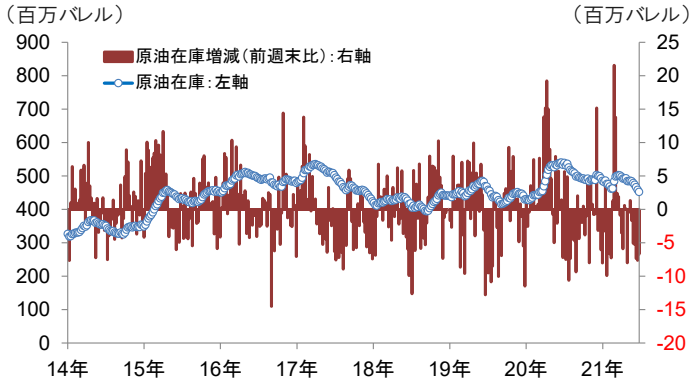


※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

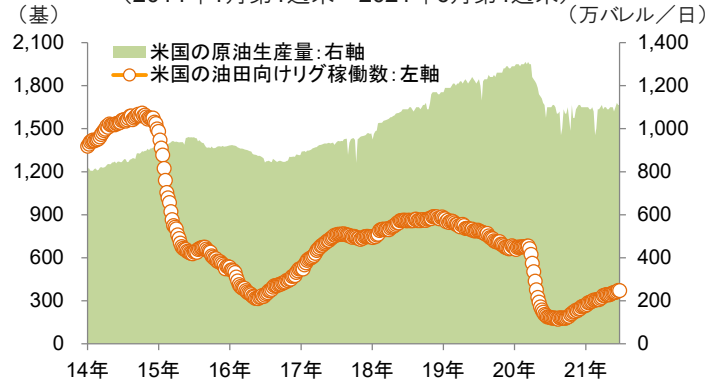
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年6月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

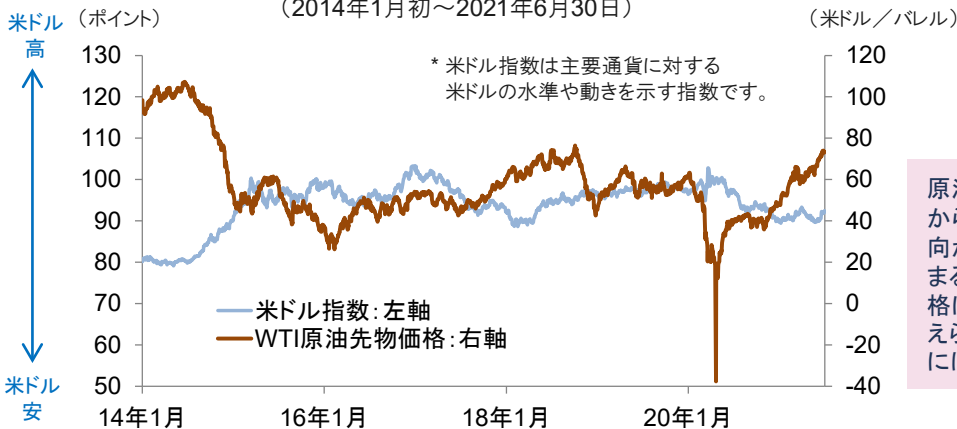
(2014年1月第1週末～2021年6月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2021年6月30日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。